

今年度の努力目標

1. 学生の読書志向，特に良書に対する関心を高める。
2. 学生に，図書館に対していっそう親しみをを持たせる。
3. 特に，書庫の本を利用し易くする。
4. 学生図書委員の活動を促す。



◇ 巻頭言 ◇

道 し る べ

図書委員 機械工学科教官
佐 藤 新 太 郎

八十年代の新学期もすでに爽やかな新緑の季節に入った。昨年度は、学生諸君の「本ばなれ」から何とかして豊かな知性の水辺に顔を写させ、喉のかわきも覚えさせようという努力がなされてきた。本年度もやはりこの努力はたゆまず続けねばなるまい。

「本を全く読まない学生もいる」という先生がたの嘆きをよそに、不読率はテレビの普及率とともに増加しているという。高専の学生は、ハイティーン年代を高専において過ごすことを思うとき、科学技術の基礎的学習はもちろん必修のことであるが、それにもまして「人間形成、自己啓発の基礎を培う大切な年代」であることは改めていわずにはおれない気持である。テレビや娯楽雑誌にけだるい時を費やし、ナウな情報のみを追いかけることで、若さと青春を錯覚するような傷々しい学生を送ってもらいたくないものです。

ここで、学生時代のうちに是非とも読書の楽しみを覚え、さらに読書の習慣を身につけて欲しいと思う。良い本というものは、「心の糧」となり、自らを考え

るための栄養を与えてくれます。また良い本は、「心の友人」として、人生を君達と語ってくれます。こんなすばらしい読書の味を少しでも覚えて、今のうちに心豊かな社会人として育つ素地をもって欲しいものです。

読書論などの方法論はともかく、図書館に備えてある選書などからでも一冊を引き出してみることが読書への第一歩です。きっと君の心の琴線に触れ、「心の糧」となり、「心の友人」を見出すことができるようになると思う。

学校の図書館では実に多くの本が君達を待っている。図書館を自分の書庫として考える位の親しみをもち利用してもらいたいものだ。本年度においても、図書館をさらに利用し易くするため、いろいろ努力されると思うが、やはりなんといっても学生諸君の旺盛な食欲によってわが福島高専の図書館もさらに充実されてくることが望ましい。図書館が学生自身の心のセンターになることを期待したい。

今年度の目標

利用者である学生諸君のがわに引きつけて説明を加えるならば、

1. もっと、よい本を、うんと、読んでほしい。

このために、名著や良書を進んで紹介する。また必読書ともいうべき本を指定する。

(まず、「いやしくも万人の必読すべき真に古典的価値ある書」と自称する岩波文庫の、「ジュニア60選」と「シニア70選」とのセットを備えて、5月20日から貸出しを始めた。)

2. 図書館にいっそう親しみを持ってほしい。

自習時間などには図書館利用をすすめる。また館内の設備なども工夫して、いっそう快適に読書できるようにする。

(昨年度末、閲覧室の床に、落ち着いた色調のじゅうたんが敷かれた。専門家である校長先生のお見立てによるもの。)

3. 特に、書庫の本を、うんと借出してほしい。

先生方には、授業に関連して在庫の書名を挙げてい

ただく。また帯出手続きが能率的になるよう改善を加えてゆく。

(手続き簡便化の一步前進として、今年度は、帯出票の更新を3年生だけとし、各学年初に顔写真をはる手数を省いてみた。)

4. 各学級の図書委員諸君の活動を期待する。

学生と図書館とをつなぐ太いパイプ役であるよう、さまざまな分野に援助協力を求めてゆく。

(5万冊に近い本の並ぶ書庫内の各書架について、3年以下の委員の奉仕を得て、当番制により、十進分類法の配列を、随時、整えてもらうことになった。)

〜ビブリアの発行計画〜

「知的饗宴の場を作りだしてゆきたい」との創刊の趣旨に則って、さらに改善と拡充を加え、各方面の人々の参加を願うつもりである。

予定としては①5月下旬 ②7月中旬 ③10月上旬 ④12月中旬 ⑤2月中旬 と、一回ふやしたい。

(館長 池田 豊)

>>>>>>> 今年度の顔振れ <<<<<<<<

I 図書委員会

館長 池田 豊
副館長 小磯 武文 (工業化学科)
委員 亀井 宣男 (一般教科)
" 佐藤 新太郎 (機械工学科)
" 鴨沢 勅郎 (電気工学科)
" 根岸 嘉和 (土木工学科)
" 事務部長

委員 庶務課長
" 加藤 勇 (図書係長)

II 図書係

係長 加藤 勇
職員 大谷 敦子 (整理担当)
" 大久保 フミ (閲覧 ")
" 山野辺 憲子 (受入 ")

III 学生図書委員会

学年	M	E	C	D
1	高橋 健	河野 繁	石崎 文彦 高橋 和浩	阿部 秀行 秋山 裕久
2	鈴木 健吾	熊谷 裕純	鯨岡 信行	阿部 修司
3	加藤 信浩	(副委員長) 菊池 稔	但野 春高	山下 英男
4	築坂 浩一	大和田 修	(委員長) 内田 修司	嶋原 一矢
5	渡部 章一	新妻 敏	馬上 功	小松山 実

友に望むこと・図書館に求めること

図書委員長 JC 内 田 修 司

日頃何気なく利用している図書館ですが、仮に今日から利用できないとしたらどうしますか。実験のレポートの参考文献の利用さえもできなくなるとしたら、果たして私たちは、満足できる学生生活が送れるでしょうか。図書館のない学生生活は、成り立たないのです。現在、本校の図書館にはおよそ4万冊の蔵書があります。これらの本が、どれくらい私たちを助けてくれているかを忘れないで欲しいのです。（学生が利用しやすいようにと気を配ってくださっている図書館関係の方々のご苦労も）

ちょっとクイズのようなものですが、これから示す数字が何をあらわすかおわかりですか。1年機械・電気・化学・土木各0名、2年電気0名、機械・土木各1名、化学2名、3年電気7名、機械12名、化学13名、土木20名、4年電気・化学各5名、機械・土木各6名、5年化学2名、機械5名、電気8名、土木9名、まとめてみると、1年生0名、2年生4名、3年生52名、4年生22名、5年生24名、土木36名、機械24名、化学22名、電気21名。

何と帯出票を持たない学生の数なのです。では、なぜ帯出票を持たないかという問題が出てくるのですが、これに対する答えは、いつも写真をはるのが面倒だということです。ちょっとの手間を惜しんでせっかくの図書の利用に制限が加えられるのは、本当に残念です。教務課にあなたの顔写真のネガが保存されていて、帯出票をつくとすれば、それが借りられるということは、知っているのでしょうか。読書することにより個性が形成されるといっても決して言い過ぎではないと思います。又、知識を広げることにも役立つでしょう。是非、帯出票をつくってください。（しかし、なぜ、帯出票に写真が必要なのでしょう。）

この図書館の蔵書が4万冊あまり、一口に4万といっても大変な数です。その内訳をみると、専門各学科や自然科学などの本が大半を占めていて、文学などの分野の本は、多いとは言えません。高専の図書館だからといってしまえばそれまでですが、このままでは、すぐれた本を深く読むようにというせっかくの指導も空なものになってしまう恐れさえ出てきます。本が氾濫している現在では、本を選ぶのも容易なことではありません。ですから、図書館にこの方面の本を入れてほしいと思うのです。ピブリアの図書目録に載って図

書館の蔵書となっても、※印がついていない本は簡単に利用することができなくなります。学生にとっても良いものは2冊ぐらい購入して、1冊を書庫へ置いてくれると大変助かるように思います。

より多くの学生が図書館を利用するようになるためには、学生の意見をも少し取り入れればよいと思います。たとえば、アンケートを取って希望の多い本を購入するとか、いつでも気づいた時に投書できるようにポストを置いてみるとか、いろいろあると思います。

しかし、何ととっても大事なものは、図書館へ来て現在の図書館の姿を見ることです。週に一日でも図書館をのぞくのもよいでしょう。少ないながらもすぐれた文学の本もあります。思い切り本が読める時なんて、高専にいる時ぐらいたと話す卒業生の多いこと。今からでもおそくはないのです。まだ、時間はあるのですから。

助言

館長 池 田 豊

1. 3年生の帯出票を更新することについては、各学級の図書委員が、顔写真をはることで奉仕作業をしてきています。
2. 工業高専の図書館として、どの分類部門の本をどのくらい備えるか（蔵書構成）については、全国的な課題として考えられています。まだまだ文学書も乏しいことは否定しませんが、その乏しい書架の中からも、強い関心と読書意欲とで、「今、自分の求めていた本はこれだ!」というのを探し当ててみませんか。
3. ※印のついていない本というのは、「教官研究費」という、本来、学生用図書購入費とは別わくの国費で、各教官が選んだものなのです。従って、各教官研究室に配置されてあります。特に読みたい学生は遠慮なく図書館事務室に相談に来てください。
4. 図書の選定などに学生の声を入れることは、今年度、具体策を考えてみます。そのとき先頭に立つ者こそ図書委員諸君です。

読書と私

英語科教官 西山公紀

私と本との付き合いを振り返って見る時、読書の素晴らしさや、その楽しさが本当の意味で解ってきたのは大学に入ってからだった様に思います。中学、高校時代は運動をやっていたせいもあり、それまでは、じっくりと落ち着いて読書する習慣がまだ身に付いていませんでした。そのため、最初のうちは何をどの様に読んでゆけば良いのか解らず、人に勧められるまま、「三太郎の日記」「善の研究」「愛と認識との出発」「愛の無常について」などを read だのが、私の読書の始まりだったように思います。その後私の専攻が英文学だったこともあって、関心がしだいに外国文学へ移ってゆき、ヘッセ、ジイド、ロマン・ロラン、ドフトエフスキー、ヘミングウェイ、スタインベック、フォークナ、グレーム・グリーン、などを夢中になって読みました。今考えると、この頃がちょうど読書の楽しさが解ってきた時期だった様に思います。しかし、まだまったくの乱読で、自主的にテーマを決め、系統だてて読書をする様になるまでには、しばらく時間が掛りました。

仙台で最初のクリスマスを迎えようとしていた頃、私は偶然、私の読書の特徴を決めてしまう様な一冊の本と出会う事になります。それは「孤独と愛」という題名の本で、マルチン・ブーバーの著書「Ich und Du」の訳本でした。詳しい内容はすっかり忘れてしまっていますが、その時、強い感銘を受けた事だけは良く覚えています。この一冊の本を手掛りに私の読書は始まりました。ガブリエル・マルセン、シモーン・ベユ、ティヤールド・シャルダン、シャルル・ペギー、エマニュエル・ムーニエ、そして私の大好きなニコライベルジャーエフなどを一本の糸を繰る様に夢中で読みふけりました。マルセルの作品は私には難かしく、読書の楽しさというよりはむしろ厳しさを教えられた様に思います。また、ベルジャーエフの著作集は私の愛読書の一つで、今でも時おりひっぱり出しては読んでいます。

二年生の第二外国語の仏語で、ボードレールの「悪の華」を読んだのがきっかけとなり、(もっとも仏語自体はさっぱり読めるようになりませんでした)フランスの象徴主義の詩人たち、マラルメ、アルチュール・ランボー、ポール・クロデル、などの詩を良く読んでいた様に思います。それ以来、詩というジャンルに

特に興味を持ち始め、高校時代は見向きもしなかった唐詩・宋詩を始め、ベルシャの詩人であるオマル・ハイヤームの「ルバイヤート」やシラーズのサァディーの「バラ園」や「果樹園」を夜遅くまで読み漁りました。試験で苦しめられる事がなくなり気楽に読めるせいか、古典の素晴らしさが、初めて理解できる様になった気がしました。

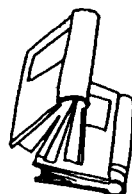
この頃は、書店を「はしご」して回ったり、古本屋をのぞくのが楽しみの一つでした。ほこりを被った本の山をかき回し、無数にある本の中から、もうすでに絶版になった本を捜し出しては喜んだり、自分と同じものに興味を持ち私よりもずっと以前にその本を読んだ人は一体どんな人だったのか、などと考えたりしました。

大学がミッション・スクールだったこともあり、私にとって文学は常にキリスト教と切り離しては考えられないものでした。永久のベストセラーと言われる聖書もあまり関心のない人々には、読むのも苦痛であるかも知れません。しかし、聖書の中には純粹に文学として読んでも十分通用する素晴らしいものが幾つもあります。例えば、「ヨブ記」「ダニエル書」「詩篇」「箴言」そして「伝道の書」などがそれで、宗教を別にしても実に興味深いものです。この聖書と共にヨーロッパの文化のバックボーンとなるものが、ギリシャ・ローマの神話です。これらは聖書よりは肩がこらずに楽しく読めます。少くともこの二つはぜひ一生のうち一度は読まれると良いと思います。

そのほかに、読んでいただきたい本を幾つか挙げてみます。まず、ヘッセ、ヘミングウェイ、クロニンなどの作品は低学年の諸君には読みやすいかも知れません。日本の作品では、「忍ぶ川」三浦哲郎、「草の花」福永武彦、「冬のかたみに」立原正秋、「自然と人生」徳富蘆花、など、また高学年の諸君には、「春の戴冠」辻邦生、「砂漠に向って」「バビロンの流れのほとりにて」森有正、「武士道」新渡辺龍造、「内面の記録」フランソワ・モーリャック、「人間の運命」ベルジャーエフ、「エラスムスの勝利と悲劇」ツバイク、などをおすすめします。それから、いわき市に関係のある作品の中より三つ紹介しますと、「漢をたらしめた神」吉野せい、「明治・父・アメリカ」星新一、ドキュメント作品として朝日新聞社が出版している

「雪の墓標」賀沢昇,などは興味深い作品と思います。
読書は良く旅にたとえられ,本は王国であり,読者はその国を旅する旅人ということになります。もちろん,実際に各地を旅行することも楽しいことですが,読書も優るとも劣らない程の喜びを居ながらにして私達に与えてくれます。また,読書は決して実際には訪れることの出来ない無限の精神の世界を旅することを可能にしてくれます。「伝道の書」の中に「多くの書を作れば際限がない。多く学べばからだが疲れる」と

いう一節があります。これは確かに真理であるように思いますが,私には全く無縁の言葉の様に感じられます。愛いを感じられる程に読書をしたと言い切れる時は一生かかってもこないでしょうし,もしそんなことが可能であれば,それ程素晴らしいことは他にないと思います。沢山の本の中から一体,幾冊,自分の心を動かす本とめぐり会うことができるでしょうか。ある意味では,良い本を見つけ出すこと自体から,もうすでに読書が始まっているのかも知れません。



利用者統計

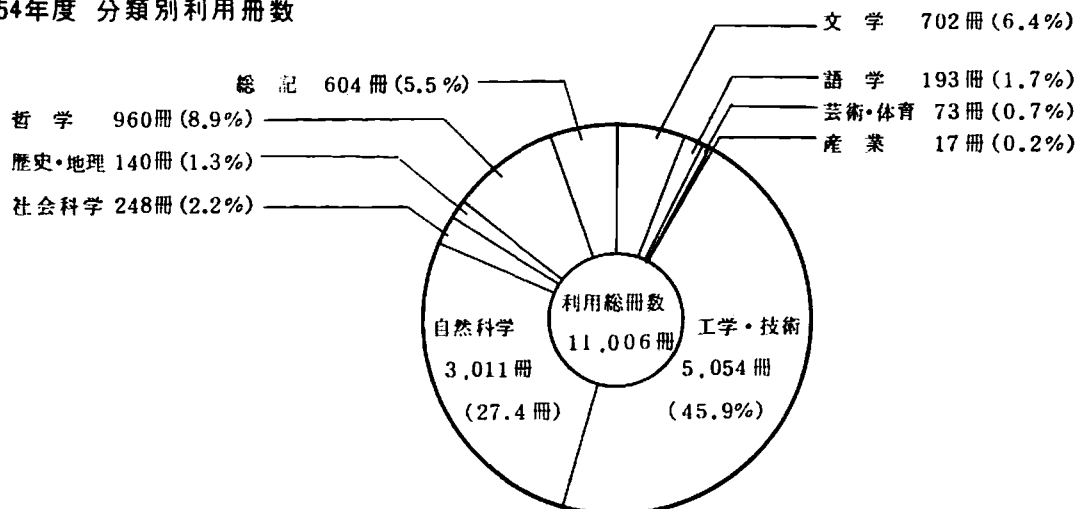
1. 昭和52~54年度(3ケ年)学生利用状況

NDC分類	利用冊数 年度	実数			%		
		52	53	54	52	53	54
000 総記		254	890	- 604	2.4	8.8	5.5
100 哲学		685	679	+ 961	6.4	6.9	8.9
200 歴史・地理		148	97	+ 141	1.4	1.0	1.3
300 社会科学		161	136	+ 248	1.5	1.3	2.2
400 自然科学		2,960	2,612	+ 3,011	28.0	26.0	27.4
500 工学・技術		5,431	4,886	+ 5,054	51.0	49.0	45.9
600 産業		26	15	+ 17	0.2	0.1	0.2
700 芸術・体育		79	50	+ 73	0.7	0.5	0.7
800 語学		191	157	+ 193	1.8	1.6	1.7
900 文学		710	500	+ 702	6.6	5.0	6.4
合計		10,645	10,022	11,006	100	100	100

(-, + は前年比)

利用冊数で年ごとに向上しているのは,喜ばしい。分類別では,哲学・社会科学の増が目立つ。

2. 54年度 分類別利用冊数



3. 54年度利用人員（科・学年別）

(1)

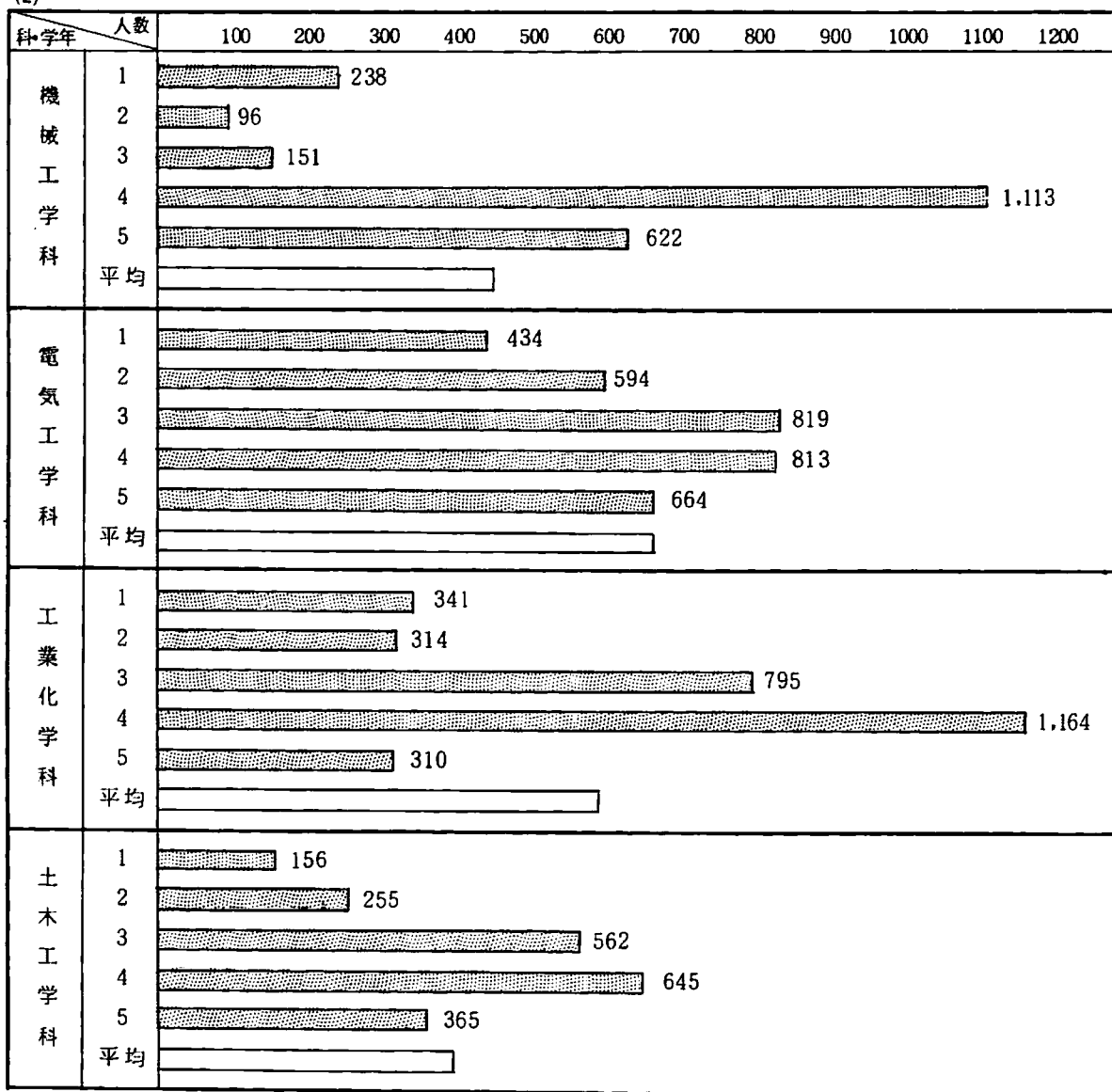
科	学年	1	2	3	4	5	計	%
機械工学科	1	238	96	151	1,113	622	2,220	21.0
	2	434	594	819	813	664	3,324	32.0
	3	341	314	795	1,164	310	2,924	28.0
	4	156	255	562	645	365	1,983	19.0
	計	1,169	1,259	2,327	3,735	1,961	10,451	
%		11.2	12.0	22.3	35.7	18.8		100

学科別では、昨年と同じく、E-C-M-土の順。学年別では、4-3-5-2-1の順。（昨年は、3-4-5-2-1）

学級順は、4C-4M-3E-4E-3C。（昨年は、3E-3C-5M-4E-4C）となる。

最高の4C（1,164冊）と最低の2M（96冊）との比が10：1に達しないとは、恐れいった話。

(2)



4. 54年度 学年別・分類別利用冊数

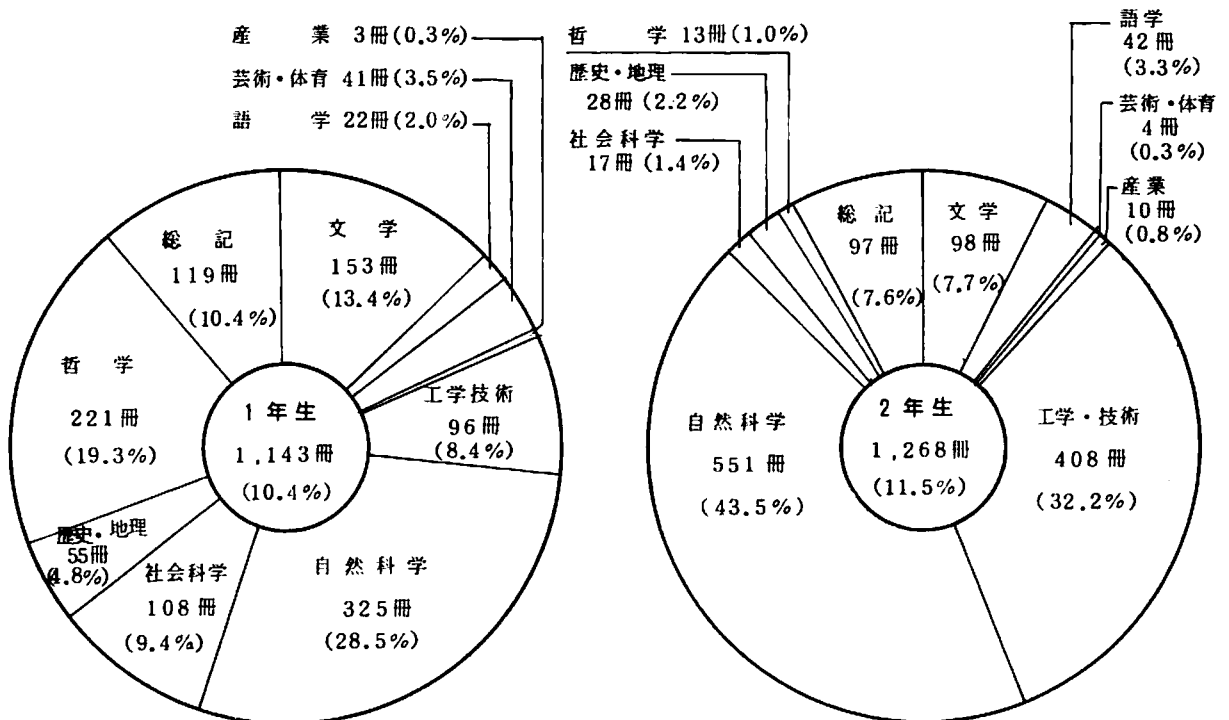
分類	1		2		3		4		5		計	%
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
000 総記	119	10.4	97	7.6	186	7.4	152	4.0	50	2.2	604	5.5
100 哲学	221	19.3	13	1.0	417	16.5	293	7.7	17	0.7	961	8.7
200 歴史・地理	55	4.8	28	2.2	31	1.2	28	0.7	1	0.0	143	1.3
300 社会科学	108	9.4	17	1.4	22	0.8	64	1.7	37	1.6	248	2.2
400 自然科学	325	28.5	551	43.5	755	30.0	1,114	29.5	266	11.6	3,011	27.3
500 工学・技術	96	8.4	408	32.2	998	39.5	1,749	46.2	1,803	79.0	5,054	46.0
600 産業	3	0.3	10	0.8	2	0.0	0	0.0	2	0.0	17	0.1
700 芸術・体育	41	3.5	4	0.3	7	0.3	14	0.4	7	0.3	73	0.7
800 語学	22	2.0	42	3.3	7	0.3	83	2.2	39	1.7	193	1.8
900 文学	153	13.4	98	7.7	99	4.0	286	7.6	66	2.9	702	6.4
合計	1,143	100	1,268	100	2,524	100	3,783	100	2,288	100	11,006	100
%	10.4		11.5		23.0		34.3		20.8		100	

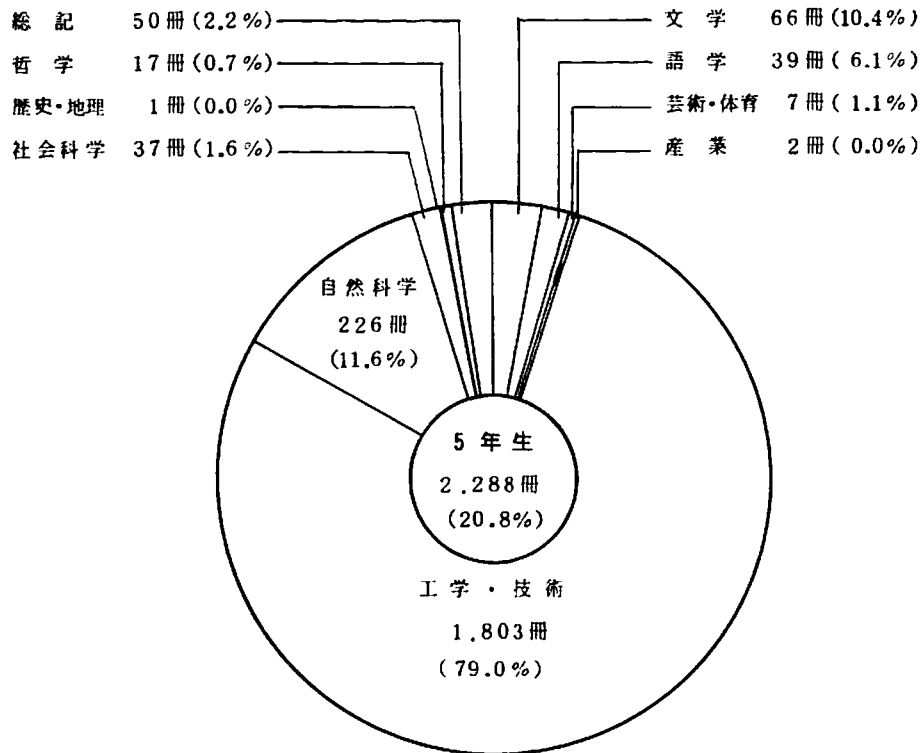
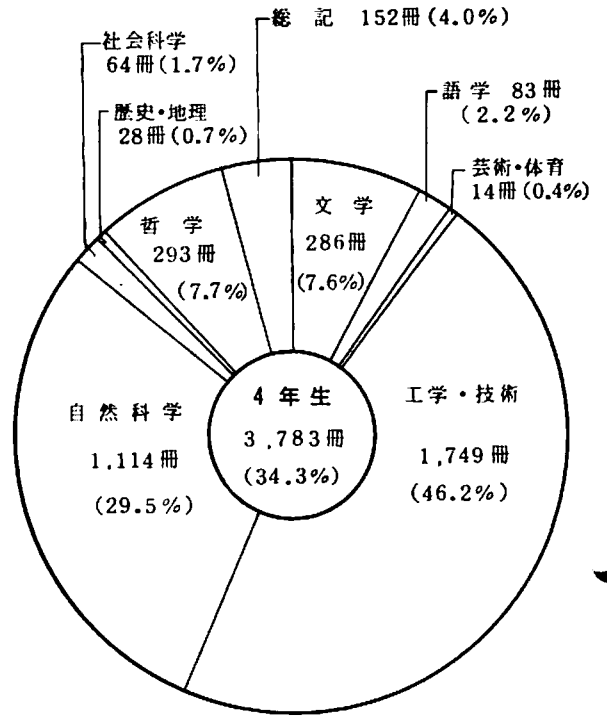
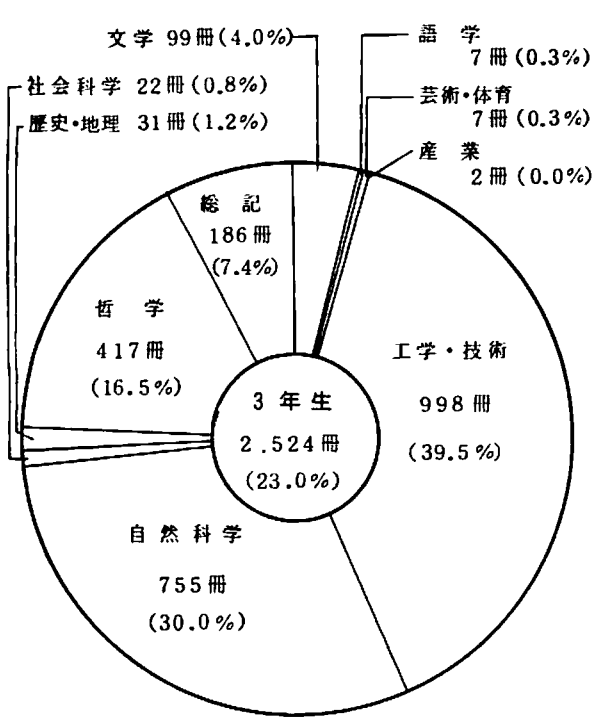
各学年とも、自然科学と工業技術とが圧倒的であるのは、うなづけること。

本校の性格に、学習課程と発達段階とが掛け合わされて、こういう現象を呈するわけである。

工業高専というものと、領域上、反対の極にあると思われる文学が4年に最も多く、次に1年に、また社会科学が1年に最も多く、次に4年に多いことは、興味をひく。

5. 54年度 学年別・分類別利用冊数





新着図書目録

※印は図書館、他は各教官の研究室に所在するものを分類別受入順に記載

総記

図書館学演習資料 前編 後編
全国学校図書館協議会
何をどう読ませるか
全国学校図書館協議会
朝日年鑑 昭和55年版 朝日新聞社
民権年鑑 昭和55年版 福島民権社
日本写真年鑑 昭和55年版
日本写真新聞社
福島民報 編刷版 昭和54年12月 福島民報社
朝日新聞 編刷版 昭和54年11～55年1月 朝日新聞社

坂田良雄
日本の新聞経営 経済往来社
人類の知的遺産 講談社
2 ワパニシャドの哲人
86 ラッセル

東洋文庫 平凡社
367 朝鮮事情
368 今昔物語集 7
369 甲子夜話 続篇
370 中国の布教と迫害
371 東洋通史記 2
372 三國史記 1
坂本龍馬全集 光風社
西郷隆盛全集 第1～5巻 大和書房
大系日本 福島 コーエ出版
人と組織
自然と地理
歴史と政治
文化と民俗
産業と経済

今野美寿
相馬藩政史 上下 東洋書院

哲学

古田夏彦
なぜと問うのはなぜだろう 国土社
数多野宛治
心理学のすすめ 筑摩書房
人と思想 清水書院
24フロイト
道元 正法藏庵随聞記 筑摩書房
日本哲学思想全書 平凡社
1 哲学篇
2 思想篇
3 イデオロギー篇
4 啓蒙篇
ルソー全集 11 白水社

高校生における知的生活のすすめ 新評論
伊藤祐将
心理技術事典 朝倉書店
水島恵一
カウンセリング入門 大日本図書
ロジャス全集 1～3 岩崎学術出版社
宮坂有勝
密教思想の真理 人文書院
勝部貞良
日本人の思想体験 角川書店
明治思想の宗義 大蔵出版
宮坂有勝
日本仏教のあゆみ 大法輪閣
川田晴太郎
仏教と哲学 平楽寺書店
近代日本思想史大系 有斐閣
7 近代日本法思想史

歴史

大山裕 戊辰役戦史 上下 時事通信社
日本庶民生活史料集成 三一書房
21 村落共同体
堀淳一 地元の風景 北海道編 1 Ⅱ そしえて 筑摩書房
明治大正図誌 16 海外 図書刊行会
日本の山河 22 京都
24 三重
望田幸男
ドイツ統一戦争 教育社
堀内勝 砂漠の文化 同
山上正太郎
第二次世界大戦 同
影山剛 漢の武帝 同
角川地名大辞典 角川書店
5 秋田県
日本人人名大辞典 1～7 平凡社
尾崎勇四郎
微細地誌 二宮書店
ハーウェイ
地理学基礎論 古今書院
谷岡武雄
歴史地理学 同
島之夫 ヨーロッパの風土と住居 同
尾留川正平
沿岸農落の生態 二宮書店
高野史男
世界の大都市 上下 大明堂
小林博 空からみた都市景観 同
藤岡謙二郎
最新地理学辞典 同
伊藤安男
輪中 学生社
日本分県地図 人文社
堀米直三
現代歴史学入門 有斐閣
井上幸治
西洋史入門 同
西島定生
東洋史入門 同
小栗了之
フランス革命 教育社
鈴木俊 中国史の区分 東京大学出版会
古代学協会

西洋古代史論叢 1～8 同
林健太郎
史学概論 有斐閣
西島定生
世界史の基礎知識 (1) (2) 同
有野貞 概説アメリカ史 同
堀敏一 概説東洋史 同
上田正昭 他
日本史 (1)～(10) 同
吉田晶 日本考古学を学ぶ 1～5 同
大塚初布
日本考古学を学ぶ (1)～(3) 同
井上光貞
日本史入門 同
日本史の基礎知識 同
藤原彰 近代日本史の基盤知識 同
高野史男
日本の生活風土 Ⅰ Ⅱ 朝倉書店
厚田典良
空からみた産業景観 大明堂
天守一彦
空からみた歴史景観 同
片岡啓治
幕末の精神 日本評論社
西川俊作
江戸時代のポリティカル・エコノミー 同
飯沼二郎
歴史のなかの風土 同
林屋辰三郎
文明開化の研究 岩波書店
同
幕末文化の研究 同
小西四郎 他
化政文化の研究 吉川弘文館
同 明治國家の権力と思想 同
世界地理 朝倉書店
15 ラテンアメリカ Ⅱ
石川栄吉
オセアニア 大明堂
菊地利夫
歴史地理学方法論 同
藤岡謙二郎
景観変遷の歴史地理学的研究 同
木村謙 旧高田領取調帳 東北編 近藤出版
ジュイヤール
ヨーロッパの南北軸 地人書房
谷岡武雄
世界地誌の研究と教育 大明堂
樋口昭夫
都市の内部構造 古今書院
センブル
環境と人間 下 古今書院

社会 科学

城戸暢太郎
何のための教育か 学校か 情報センター
橋本承治 他
教育評価の技術 図書文化
吉田昇 他
日本教育史 有斐閣
持田栄一
仏教と教育 日本評論社

中村英勝	イギリス議会史 有斐閣 職場の人間関係 Ⅰ Ⅱ 日刊工業新聞社※ 研究者研究課題総覧 自然科学編 1979年版 日本学術振興会 同 人文社会科学編 1979年版 同	多変量解析入門 柴垣和三雄 ルベグ積分入門 森北出版 中塚利直 時系列解析の数学的基礎 教育出版※ 磯田店 基礎図学 理工学社 日本物理学会 計算機による物理実験データ処理 サイエンス社※	現代数学社	反射留置鏡の作り方 高城武夫 天文教員 同 ※ 池原森男 磁版 朝倉書店※ Watson 遺伝子の分子生物学 上下 化学同人※ 川上正也 分子生物学 講談社※ マクスウェル 生命の環境 上 同 ※ 大島長造 昆虫の行動と適応 培風館※ 鈴木健二 フェロモン 三共出版※ 食品分析ハンドブック 建邦社※ 浦上晋子 食物学栄養学のための有機化学 東京化学同人※	厚生閣恒星社※
講座日本の民俗宗教	弘文堂※	平井紀光 ホログラフの基礎と実験 共立出版 鈴木保正 物理学 講義と解説 Ⅰ アグネ 藤本武助 流体力学 養賢堂※ Crawford 波動 上下 丸善※ 甲藤好郎 伝熱概論 養賢堂※ 物理学工学基礎実験 東京大学出版会 4 真空技術 5 潤滑の基本技術 久保亮五 大学演習 熱学 統計力学 裳華房※ 山内恭彦 大学演習 力学 同 ※ 牧田康雄 現代音響学 オーム社 物理学 One Point 共立出版 1 エントロピー 2 電場・磁場 3 質量 4 電流と回路 5 力 作用力 反作用力 6 温度と熱		山西貞 食品学実験 産業図書 橋垣長典 栄養学実験 同 小林彰夫 基礎実験 同 鈴木雅子 化学基礎 食品学実験 三共出版 Longman dictionary of scientific usage Karlin Studies in spline functions and approximation theory Longman Fairweather Finit element galerkin methods for differential equations Dekker Henrici Applied and computational complex analysis John Willy Levi- The absolute differential calculus Dever Milin Univalent functions and orthonal systems A.M.S Miller Symmetry and separation of variables Addison Przeworska-Rolewicz Equations with transformed argument Elsevier Multichannel time series analysis with digital computer programs Aolden Day Shibuya Yasutaka Global theory of a second order linear ordinary differential equation with a polynomial coefficient North-Holland Wechler The concept of fuzziness in Automata and language theory Akademie Prolla Approximation of vector valued functions Silver Irreducible tensor methods Academic Six international conference on numerical methods in fluid dynamics Spring	
金井達哉	教育統計法詳説 上中下 図書文化※ 新教育心理学事典 金子喜房※ 日本人の県民性 日本放送出版協会				
岡松久弥	経済地理学説史 古今書院				
シムクソン	政治地理学 大明堂				
横山敏一	「地域からの発想」 日本経済新聞社				
Nerlove	Analysis of economic time series Academic Press				
自然科学					
仏和理工学辞典 白水社※ 岩波理化学辞典 岩波書店※ マグローヒル科学技術用語大辞典 日刊工業新聞社					
坂山四郎	確量 冷えた湯たんぽ 開発社				
飯塚幸三 他	JISとSIに基づき量記号、単位記号の使い方 オーム社※ 知の革命史 朝倉書店※ 川上正光 4 生命思想の系譜 川上正光 科学と控制 同 ※ 早川光雄 科学技術ロシア語 白水社※ 同 科学技術ロシア基本単語集 同 ※ 大岩正芳 化学者のための数学十講 化学同人※ 岸正倫 ポテンシャル論 森北出版 宇野利雄 他 ポテンシャル 培風館 伊藤清三 偏微分方程式 同 形ノ標準 偏微分方程式 共立出版 ペストロフスキー 偏微分方程式論 東京図書 黒田正 応用偏微分方程式 朝倉書店 橋田一郎 多相体とモース理論 現代数学社 ウラジミロフ 応用偏微分方程式 Ⅰ 文一総合出版 武藤真介	生井武文 流れの力学 コロナ社 安達三郎 電磁気学演習 丸善 プラズマ 核融合 (実験物理学講座 30) 共立出版※ ディビシ 時間の物理学 培風館※ 日本物理学会 現代物理用語 培風館※ 真田順平 基礎課程 物理学 同 ※ 岡田功 初歩者のための熱力学教本 オーム社※ 岩倉義男 有機合成化学 コロナ社 高橋浩 スペクトル有機化学 共立出版 アトキンス 物理学 上 東京化学同人※ Lambert 有機化合物の構造解析 上下 同 ※ 日本化学会 日本の化学百年史 同 ※ 田中誠之 有機化合物の構造決定法 産業図書 藤井旭 すばらしき星座の寶笈 大和書房※ 本特派のための反射留置鏡の製作 誠文堂新光社※ 高城武夫 私の新彗星発見記 厚生閣恒星社※ 藤井旭 月 写真集 朝倉書店※ 星野次郎			
10					

Brebbia Numerical methods in fluid dynamics Pentech
 Lloyd The mathematics of hydrology and water resources Academic

工学・技術

秋山守男 応用関数論 森北出版社
 佐多敏之 工業材料 同 森北出版社
 三反田鶴枝 技術英語入門 日刊工業新聞社
 上總敦孝 入門FORTRAN オーム社
 小郷寛 電子回路演習 I 共立出版社
 桑地謙次 SCRとその応用 日刊工業新聞社
 シンクロスコープ 同 森北出版社
 秋山守雄 電気通信工学入門演習 産業図書
 橋本清 例題解説演習式 応用力学 学苑社
 三宅政光 土木応用力学精選例題集 昭晃堂
 松原孝之 電子管の基礎 東京電機大学出版局
 中村明子 他 FORTRAN数値計算とプログラミング 共立出版社
 坂本正文 例題解説応用力学問題集 上下 理工図書
 畑中元弘 他 応用力学 II (わかりやすい土木講座 5) 彰国社
 近畿高校土木会 考え方解き方 鉄筋コンクリート オーム社
 電気測定法 電気学会
 小西一郎 構造力学 I II 丸善
 解説土木用語集 山海堂
 藤田圭一 くい打ち技術ノート 日刊工業新聞社
 図解土木用語辞典 同 森北出版社
 鈴木栄一 環境統計学 地人書館
 環境統計学 同
 久保慶三郎 構造力学演習 学苑社
 ネビルのコンクリートの特性 技報堂
 鋼道路橋設計便覧 日本道路協会
 機械工学SIマニュアル 日本機械学会
 河端市博 設計基準 加工編 パワー社
 小野堂 ころがり軸受の応用設計 大河出版
 ファン・カルマン 飛行の理論 岩波書店
 フーブス 技術の歴史 同
 小郷寛 システム制御理論入門 実教出版
 最新ICトランジスタ回路アイデア集 誠文堂新光社
 宮川洋 画像エレクトロニクスの基礎 コロナ社

代本書 画像の情報処理 同
 岡井隆 画像の記録と再生 同
 C.A.テソー 電気回路論入門 上下 ブレイン図書
 沢川晃 F.M.チューナ・マニュアル ラジオ技術社
 大石敏 画像ディスプレイ コロナ社
 佐藤泰一 精解ソフトウェア配色法 同 森北出版社
 現代弾性力学 オーム社
 現代材料力学 同
 J.T.オーデン 非線形連続体の有限要素法 2 培風館
 立井久 機械工作実習指導書 コロナ社
 新機械工学便覧 理工学社
 馬場秋次郎 機械工学便覧 三省堂
 北郷敏 「機械の研究」別冊 最新機械設計編 産賢堂
 遠藤健児 他 機械設計者のための精選マニュアル 工業調査会
 覆辺彰 機械設計概論 パワー社
 堀田豊 エネルギー科学と技術開発 共立出版
 石川七男 フズ巻ポンプの設計 技報堂
 竹中俊夫 S1の使い方 オーム社
 太陽エネルギー読本 同
 エンジニアリング・サイエンス講座 共立出版
 13 流れと熱の工学 I
 14 同 II
 S.W. Chi ヒートパイプの理論と応用 ジェテック出版
 日本鑄物工業会 造型技術の要旨 コロナ社
 バルケンブルグ 改訂 回路網解析 同
 神谷六郎 基礎伝送回路 同
 今井繁 トランジスタDA・AD変換器 産報出版
 樋口芳朗 建設材料科学 技報堂
 浅原喜代治 現代システム工学の基礎 オーム社
 岡本壽三 地震力を考えた構造物設計法 同
 角江空 公務員主要会社 土木技術職員採用試験問題集 理工図書
 高村協 中上級土木職員採用試験 山海堂
 測量士・測量士補国家試験 昭和55年版 同
 これで合格 土木職職試験問題集 上下 啓学出版
 国家地方公務員土木職職試験 600題 オーム社
 村山保 他 土木技術職員採用試験土木問題集 理工図書
 高村協 新版 土木職員採用試験 山海堂
 桜井盛男 精選 技術職員採用試験問題解答集 土木編 現代理工学出版
 橋田重男 機構学演習 学苑社
 Thomson 機械振動入門 丸善

音響設計 内燃機関設計法 朝倉書店
 小能正 機械設計演習 エンジン編 パワー社
 橋本 ポンプ編 パワー社
 谷口隆 大学演習 機械力学 実業出版社
 堀米孝 太陽熱発電技術読本 オーム社
 北川一雄 続 ティンダルIC実験と工作マニュアル 同
 阿部芳朗 生産性設計 (設計シリーズ 4) 丸善
 JISハンドブック 油圧 空気圧 日本規格協会
 坂井秀春 リーマとリーマ返し 橋倉書店
 よくわかる歯車と歯切作業法 理工学社
 山田義昭 切削の基礎 パワー社
 知りたい切削の急所 ジャパンマシニスト
 S1単位活用事典 日本規格協会
 今井孝二 パワエレクトロニクス 電気書院
 電子展望 最新IC技術入門 誠文堂新光社
 麻時立男 導線作成の基礎 日刊工業新聞社
 ファーサイス コンピュータサイエンス入門 培風館
 Kemeny ベーシック入門 共立出版
 発電用水力設備の技術基準と管理手続き 電力土木技術協会
 藤田重文 化学工学演習 東京化学同人
 伊藤四郎 化学工学 上 同 森北出版社
 太陽エネルギー読本 オーム社
 杉田隆 治具 工具 取付具 日刊工業新聞社
 富田幸雄 他 工学のための費理解析 I~II 実教出版
 トーカート 構造力学とエネルギー原理 ブレイン図書
 土木技術者のための鋼材知識 技報堂
 椎尾博美 土木解析学 丸善
 成岡昌夫 他 骨組構造解析法要覧 培風館
 日太太陽エネルギー学会 太陽エネルギー読本 オーム社
 加藤重男 基礎応用機械工学演習 橋倉書店
 ロビンソン 技術者のためのマトリックス構造解析法 培風館
 鬼頭史城 キャピテーションの話 オーム社
 小能正 機械設計 3 エンジンの設計製図 パワー社
 標準機械工学実験法 理工図書
 大久保繁 新選 材料力学演習 産賢堂
 野口尚一 材料力学演習 森北出版
 河野俊助 新油圧技術読本 日刊工業新聞社
 北村嘉行 他 日本工業の地域構造 大明堂

北川一雄
オペアンプIC実験と工作マニュアル
オーム社

同
サイリスタ実験と工作マニュアル
同

同
デジタルIC実験と工作マニュアル
同

小栗幸正
油圧と回路
理工学社

塩崎泰弘
油圧駆動入門
コロナ社

矢部章彦
染色機設
光生館

同
衣服整理学・染色化学実験
産業図書

田中道一
複層材料科学実験
同

日本化学会
硫黄酸化物
丸善

同
放射性物質
同

同
窒素酸化物
同

緒方雅彦
重油排煙脱硫技術
日刊工業新聞社

日本機械学会講演論文集 No.880-1~5
日本機械学会

日本化学会
放射線防護入門
丸善

江藤秀雄
放射線の防護
同

日本アイソトープ協会
ラジオアイソトープ 講義と実習
同

同
アイソトープ便覧
同

青木保雄
精密測定(1)(2)
コロナ社

総合エネルギー講座
オーム社

1 エネルギー工学総論
2 エネルギー基礎工学
3 エネルギー資源工学
4 エネルギー蓄積輸送工学
6 エネルギー利用工学
7 エネルギー開発工学

一色尚次 性
伝熱工学
森北出版

竹中利夫
油圧工学
養賢堂

山岸正謙
NC工作機械
日刊工業新聞社

中山秀太郎
技術史入門
オーム社

近森徳重
密封装置
金沢印刷

森田泰司
流体工学と流体機械の基礎
啓学出版

村上光尚
流体機械
オーム社

ステパノフ
ポンプとブロウ
産業図書

明石一
制御工学
共立出版

橋本義一
わかる自動制御
日新出版

浜田喬
わかる自動制御演習
同

橋本武助
新編 流体工学大要
養賢堂

広瀬幸治
流れ学
共立出版

ユーリック
腐食反応とその制御
産業図書

ウエスト
電析と腐食
同

橋本豊 金属の塗装
地人書館

川下研介
伝熱工学入門
生産技術センター

宮本五郎
写真感光材料と取扱法
共立出版

橋本幸次
写真計測法
同

高橋勲次郎
高周波の工率への応用
東京電機大学

Yariv
光エレクトロニクスの基礎 九巻
エンサイクロペディア アスキー Vol.3
アスキー出版

小川博三
日本土壌環境説
共立出版

ラウス
水理学史
丸善出版

木村貞
スラリー曝露
山海堂

尾田俊介
最新の地盤注入工法
理工図書

藤森謙一
新しい軟弱地盤処理工法
近代図書

山口真一
地すべり 山崩れ
大明堂

山崎復雄
科学技術史概論
オーム社

土木学会
日本の土木地理
森北出版

柴崎光弘
灌漑注入工法の設計と施工
山海堂

環境アセスメントマニュアル
環境技術研究会

ダンカン
アイソトープ化学の基礎と応用
共立出版

須田信夫
原子炉の動特性と制御
同文書院

山泉立
環境放射能測定法
共立出版

森五郎
アイソトープの取扱
南江堂

ラマージュ
原子炉の初等理論 上下
吉岡書店

原子炉工学講座
培風館

1 原子核工学基礎
2 放射線防護
3 原子炉物理解
4 燃・材料
6 計装制御

吉沢康雄
放射線管理のやり方考え方
東京大学出版会

橋本雄平
放射化学及放射線保健学
広川書店

川瀬金次郎
環境と放射能
東海大学出版会

栗原光政
工業地域の形成と構造
大明堂

辻本芳郎
日本の在来工業
同

竹内彦彦
工業地域構造論
同

ラジオアイソトープ
丸善

Hollingdale
Mathematical aspects of marine traffic
Academic

Beutechnik Wörterbuch B and 3
Freba

Timoshenko
Mechanics of materials
Van Nostrand Reinhold

産 業

宇留野藤雄
改訂 交通心理学
技術書院

日本放送年鑑 昭和54年度
洋文社

菊池一雄
世界の資源と産業
大明堂

光船浩二
産業地理学の方法と実態分析
未来社

石原照敏
乳業と酪農の地域形成
古今書院

堀田忠夫
日本農業の地域的分析
大明堂

スコット
小売業の地域構造
同

杉村昭二
要別店舗の立地
同

飯島勝島
地場産業の町 上
古今書院

石井象二郎
害虫との戦い
大日本図書

湯島健
生態系と農業
岩波書店

芸 術

新修 日本絵巻物全集 8 17
角川書店

日本水泳連盟
水泳指導教本
大修館書店

アムプレスター
水泳教室 ベースボールマガジン社

紺野晃
オリエンテーリング
講談社

金子明友
体操競技 世界の技術
同

中尾和三
軟式テニス
同

川越栄一
テニス 世界のプレー
同

小野鶴次
陸上競技の技術
同

浮世絵聚花 キノ東洋美術館
書籍
パリ国立
小学館

語 学

西尾実
岩波国語辞典 3版
岩波書店

言葉に関する問答集 1~3
文化庁

敬語
同

言葉のしつけ
同

外来語
同

標準語と方言
同

宮川松男
技術者のための文章作法
日刊工業新聞社

垣原林司
日本語専門語の誤記誤用
有斐閣

新訳漢文大系
69 論衡 中
明治書院

宮田学
基礎英語
研究社

藤井寛
英文解釈
同

大前茲司	英文法	同 ※	高田久寿	はじめてわかる高校英語	同 ※
伊藤和夫	英文解釈教室	同 ※	龜口武太郎	新々高等英文解釈	評論社 ※
斎藤誠哉	やさしい英文法	同 ※	同	英文解釈の基礎	同 ※
荒木一雄	英文中心 新英文解釈	数研出版 ※	羽鳥博愛	究明高校英語の基礎	文研出版 ※
山内邦臣	英語構文と解釈	同 ※	同	新研究 英文解釈	旺文社 ※
清水周希	基礎と研究 新英語	同 ※	小川秀男	よくわかる英文解釈	同 ※
荒木良右	英文法	同 ※	梶本隆一	英語の基礎	同 ※
鈴木達	英作文	同 ※	同	英文解釈問題集	同 ※
西尾孝	実践英語水準表	日本英語教育協会 ※	同	高校英語の基礎	学習研究社 ※
同	実践英文法活用事典	同 ※	Womack	英文正誤活用辞典	光竹出版
同	実践英単語活用事典	同 ※	White	英語イデオロム事典	ジャパンタイムズ
同	実践英語書き換え問題	同 ※	吉川天夫	英文法詳説	文芸書房 ※
蓮井正樹	ユニオン基礎英語	中央図書 ※	木村明	英文法精解 改訂版	培風館 ※
中西信太郎	精読と考え方 英文解釈の基礎	同 ※	小川秀男	よくわかる英文解釈	旺文社 ※
森一郎	大学への英文法全出題	英潮社 ※	同	よくわかる英文法	同 ※
			Land	Reading comprehension test papers	

文 学

伊藤一夫	島崎藤村	明治書院
	露伴全集 37~41 別巻上	岩波書店 ※
新潮現代文学		新潮社 ※
9	石坂洋次郎	
10	丹羽文雄	
19	円地文子	
31	福永武彦	
57	三浦哲郎	
58	山口謙	
63	丸谷才一	
69	倉橋由美子	
	アララギ 第15~19巻 教育出版センター	
	ロマン・ロラン全集 5, 15, 23, 36	
		みずすき房
	ティル オレンシュビーゲルの愉快ないた	
	ずら	法政大学出版局

寄贈図書紹介

～新潮社から、ありがたい寄贈～

同社の創立80年記念事業として、「新潮文庫・高校図書館用特製セット150冊」と、その「組立式専用書架一式」などが届けられた。

整理を済ませ次第、一時、閲覧室の戸棚に展示してから、書庫に収めて、借り出しに供する。なお150冊の目録は、各学級に掲示する。

読んでみませんか

本のある生活 (高田宏 新潮社)

本は気ままに楽しみたい — 現代の好著百数十冊を例に、本のある生活の喜びを語る。

お茶を飲みながら (遠藤周作 小学館)

他者の哀しみへの共感を書き続ける氏のエッセイ集 — 独特のユーモアを交えて人間の生き方を考える。

シベリア捕虜収容所 上下

(若槻泰雄 サイマル出版)

音さえ凍る寒気の中で ダモイ(掃国)を餌に強制労働

勤と虐待に哭く60万日本兵の無念を綴る。

アインシュタインの生涯 (ゼーリッヒ 東京図書)

先生の時代を超えた偉大さが私にはこの頃ますますはっきりと分ってきた気がする — 湯川秀樹序

熱とエントロピー (ブクジマン 東京図書)

人類の夢、永久機関の制作に完全に失敗した物理学者は、たいへん人間的な法則を作った。啓蒙的名著。